

## 学びを伝え、共有する—— 青少年国際交流事業町民報告会を開催

3月20日、町産業センターにおいて青少年国際交流事業町民報告会が開催されました。

第1部の「報告会」では、交流事業に参加した白鷹中学校生8人と荒砥高校生3人が、初めての海外研修で感じたことや得たことを、英語を交えて発表。第2部の「シラタカみらいカフェ」生徒と大人のおしゃべりタイム」では、町青少年

育成町民会議のメンバーらと座を交え、和やかに歓談。海外から見て感じた白鷹町の良さや、町にもあれば良いと思うことなどを語り合いました。

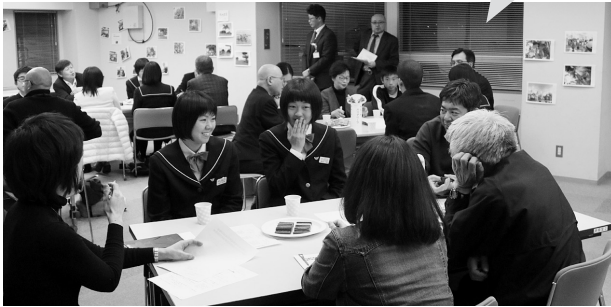
生徒たちは「海外の文化に触れたことで日本や白鷹の良き文化を知り、日々の生活におけるありがたさを身に染みて感じた」と話し、一回り成長した姿を見せてくれました。

### 《生徒の声》

- ・ケアンズの海岸に誰でも利用可能なバーベキューセットが置いてあるように、白鷹にも気軽に集える場所がほしい。
- ・深山和紙製品をお土産に持って行ったが、和紙のようなものはケアンズにはない。白鷹の伝統工芸を残してほしい。
- ・合掌して「いただきます」をしたら、現地の小さい子が真似をした。日本の文化を伝えることも大事だと感じた。

### 《大人の声》

- ・ホストファミリー宅で食事をいただくとき、心の中で「いただきます」を言って食べたのとの話を聞き、いただきますの心が根付いているのだなと感じた。
- ・子どもたちの自信にあふれた目や、伝えようとする気持ちが伝わり、自信がついたのだと感じた。



緊張感を持ちながら研修に臨む新社会人たち

## 頑張れ！新社会人 ビジネスマナー学ぶフレッシュヤーズ研修会

新規学卒就職者の激励会及びビジネスマナーを学ぶ研修会が3月15日、パレス松風で行われました。

この日は、対象者33人が参加。佐藤町長が「就職は人生の大きな節目。さまざまな責任と向き合っていくながら、すばらしい社会人になってほしい」と激励しました。続く研修会では、

人材育成アカデミーローズレーン代表の黒田三佳さんが、社会人としての基本やマナーを指導。あいさつや姿勢、身だしなみなど、細かい部分まで互いにチェックし合った参加者は、社会人としての一歩を踏み出す前にもう一度、それぞれが気を引き締めている様子でした。

## つながり続けるハーモニー 白鷹町青少年少女合唱団が結成10周年を飾る

白鷹町青少年少女合唱団の結成10周年記念演奏会「第8回定期演奏会」が3月21日、町文化交流センターあゆむで開かれました。

同合唱団は「歌を通じて子どもたちの豊かな心を育むこと、子ども同士の交流の輪を広げること」を目的に平成20年に結成されました。結成10周年の節目に、合唱団OB・OGや女声

コーラスさくら、町出身ソプラノ歌手の文屋小百合さんたちとともに元気いっばいの歌声を響かせた団員21人。馬場真結子さん（結成小6年）が「皆さんの温かい気持ちをいただきながら発表できた。私たち合唱団をこれからもよろしくお願います」とあいさつすると、盛大な拍手が会場に鳴り響きました。



文屋小百合さん（左端）と美しいハーモニーを響かせる団員たち

## 地域おこしへの「新鮮力」 新たな協力隊に楊妍さんと大津大介さん

4月1日、地域おこし協力隊の委嘱状交付式が町長室で行われ、現隊員の三浦康さんに加え、新たに着任した楊妍さんと大津大介さんに佐藤町長より委嘱状が交付されました。

白鷹初の外国人の協力隊となった楊さんは、中国天津市の出身。今後、東京五輪白鷹町ホストタウン推進本部にて、中国について紹介するイベントの企画やジュニア選手の交流サポート

トなどを行っていきます。中山町出身で、レーザーとしての経歴を持つ大津さんは、これまで自動車関連の仕事に携わってきました。今後は鷹山地区において、主に農業振興に向けた活動を行っていきます。

また、これまで町観光協会を拠点に活動してきた三浦さんは、6月にオープンする新図書館に活動の場を移し、新たな形で地域おこし活動が続けていきます。



左から、2年目の三浦さんと新たに着任した楊さん、大津さん



佐藤町長に弁当箱を手渡しする大滝本部長

## 町内小学校等への寄付に感謝—— アルミ製弁当箱113個を寄贈

4月3日、JA山形おきたま農政対策白鷹地区本部（大滝権一本部長）によるアルミ製弁当箱贈呈式が町長室で行われ、町内小学校等の新入生113名分の弁当箱が寄贈されました。

これは「これからの白鷹

町を担う子ども達に、おいしいお米を食べてもらいたい」と毎年行われているものです。弁当箱は、入学式の日には各小学校の新入生の皆さんに贈られました。ありがとうございました。

## 活動をとおして見つけた白鷹の魅力—— 地域おこし協力隊が活動報告

地域おこし協力隊による活動報告会が3月23日、山峡紅の里で開かれました。

平成30年度は、4人の隊員が地域コミュニティや観光、文化財などに関わる地域おこし活動を行ってきました。報告会では、石井紀子さん、遠藤真弓さん、茅野唯さんの3人が、3年間の活動内容と今後の具体的な計画を発表。三浦康さんは、白鷹で撮りためてきた

写真をスライドショーで映し、外からの視点として町の魅力を伝えました。

また、報告会終了後には、3年間の任期を終えた石井さん、遠藤さん、茅野さんへ、感謝の気持ちを込めた花束が贈られました。今後、石井さんは町の文化財活用コーディネーター、遠藤さんと茅野さんはゲストハウス「暮らし no. 5 藤 mashi」の経営、三浦さんは引き続き地域おこし協力隊として町内で活動を続けていきます。



①ゲストハウスの概要を報告する遠藤さんと茅野さん ②白鷹町第1号の地域おこし協力隊である石井さん。隊員間のリレー的な役割も担ってきた